

学会予稿用クラスファイルの使い方

情報システム運用委員会 (日本数学会)*¹

1 はじめに

このドキュメントは日本数学会年会および秋季総合分科会のアブストラクト集のためのクラスファイル `msjproc.cls` version 0.9.5 の簡易ドキュメントです¹。

1.1 クラスファイルの仕様

- 日本数学会の学会アブストラクトの書式[2]に則っています。

用紙サイズ：A4 (幅21.0cm × 高さ29.7cm)

本文サイズ：幅14.5cm × 高さ23.0cm

余 白：左右余白3.25cm, 上下余白3.35cm

タイトル幅：10cm以内

文字サイズ：12pt (デフォルト)

ページ番号：なし

- \LaTeX 2 ϵ および $\text{p}\text{\LaTeX}$ 2 ϵ のどちらでも動作します。 $\text{p}\text{\LaTeX}$ 動作かどうかは自動判別です。

※ \LaTeX 2.09、 $\text{p}\text{\LaTeX}$ 2.09、NTT $\text{j}\text{\LaTeX}$ などの古い \LaTeX 、および Lambda、 $\text{L}\text{\LaTeX}$ 、 $\text{X}\text{\LaTeX}$ などの Unicode 系 \LaTeX では動作しません。 $\text{pdf}\text{\LaTeX}$ などはおおむね動作するようです。

※総合講演および企画特別講演用の書式は、学会アブストラクトの書式より本文幅が1cm 広がっています。

1.2 ダウンロードとインストール

学会予稿用クラスのアーカイブファイルは

<http://mathsoc.jp/meeting/texstyle/>

からダウンロードできます。クラスファイルは大会ごとにバージョンアップされることがありますので、投稿には最新のものをご利用ください。

アーカイブファイルを展開すると図1のようになっています。EUC 漢字コード版は UNIX/MacOS X 用、シフト JIS 漢字コード版は Windows 用です。適切な方のクラスファイル `msjproc.cls` を \LaTeX ソースと同じフォルダに置いてお使いください。システムへのインストールは不要です。

※EUC 漢字コード版の改行コードは LF (0x0A)、シフト JIS コード版の改行コードは CR+LF (0x0D, 0x0A) です。

*¹ 〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8 社団法人 日本数学会
web: <http://mathsoc.jp/>

¹ このドキュメント自身もクラスファイル `msjproc.cls` を用いてコンパイルしてあります。

msjproc_v0.9.5/	
+ howto_ja.pdf	このドキュメント
+ euc/	EUC漢字コード版フォルダ
+ msjproc.cls	学会予稿用クラスファイル
+ howto_ja.tex	このドキュメントの \LaTeX ソースファイル
+ howto_ja.bib	このドキュメントの \LaTeX ソースファイル
+ sample_en.tex	サンプルファイル(英語用)
+ sample_ja.tex	サンプルファイル(日本語用)
+ sjis/	シフトJIS漢字コード版フォルダ
+ msjproc.cls	学会予稿用クラスファイル
+ howto_ja.tex	このドキュメントの \LaTeX ソースファイル
+ howto_ja.bib	このドキュメントの \LaTeX ソースファイル
+ sample_en.tex	サンプルファイル(英語用)
+ sample_ja.tex	サンプルファイル(日本語用)

図 1: アーカイブファイルの構成

1.3 概ね動作確認がとれている主要なスタイルファイル

以下のスタイルファイルについてはクラスファイルと競合しないことが確認済みです。

多言語環境 : babel.sty

フォント : times.sty

レイアウト : multicol.sty

AMS関連 : amsmath.sty, amsthm.sty, amssymb.sty,
amsmath.sty

グラフィクス : graphics.sty, graphicx.sty

※上記以外のスタイルファイルが使えないわけではありません。

※余白等のページレイアウトを変更するスタイルファイル、color.styなど色を使用するスタイルファイルは使用できません。

2 使用方法

この学会予稿用クラスファイルを使用するには、以下のようになしてください。

```
\documentclass{msjproc}
\begin{document}
:
\end{document}
```

このクラスファイルは $\text{\LaTeX}2\epsilon$ でコンパイルすると英語モードで、 $\text{\LaTeX}2\epsilon$ でコンパイルすると日本語モードで動作します。 $\text{\LaTeX}2\epsilon$ で英語の予稿を書きたい場合は

```
\documentclass[english]{msjproc}
```

とするか、babel.styパッケージでenglishオプションを指定します。

```
\documentclass{msjproc}
\usepackage[english]{babel}
```

2.1 クラスファイルオプション

\documentclass のオプションとして以下のものが指定できます。

english : 強制的に英語モードで動作させる
12pt : 12pt で本文をタイプセット (デフォルト)
11pt : 11pt で本文をタイプセット
10pt : 10pt で本文をタイプセット (非推奨)
kikaku : 総合講演および企画特別講演用

※オプションで 11pt、10pt を指定しても、タイトル、著者名などは常に 12pt モードでタイプセットされます。

タイトル : \Large (17pt)
著者名/所属 : \normalsize (12pt)
電子メール : \small (11pt)

2.2 参考文献

参考文献の記述には thebibliography 環境および、BibTeX/JBibTeX の出力を利用する \bibliography 命令のどちらも利用可能です。

2.3 仕様変更・拡張機能

このクラスファイルは L^AT_EX 2_ε/pL^AT_EX 2_ε 標準の article.cls および jarticle.cls をベースに作られています。タイトル／著者情報など記述の方法が一部異なります。標準の L^AT_EX/pL^AT_EX から仕様変更あるいは拡張・追加された命令は以下の通りです。

\author{氏名}{所属}

\author 命令を人数分書くと縦に並んで出力されます。

\maketitle 命令より前に記述します。

\address{連絡先}

直前の \author 命令で指定した著者の連絡先を脚注に表示します。

\maketitle 命令より前に記述します。

\email{電子メールアドレス}

直前の \author 命令で指定した著者の電子メールアドレスを脚注に表示します。 \maketitle 命令より前に記述します。

\webpage{ウェブページURL}

直前の \author 命令で指定した著者のウェブページ URL を脚注に表示します。 \maketitle 命令より前に記述します。

\thanks{コメント}

科研費およびその他の助成金などの記載に使う命令で、脚注に表示されます。 \maketitle 命令より前に記述します。

`\keywords{キーワードリスト}`

1つ以上のキーワードをカンマ区切りで指定します。1ページ目脚注に表示されますが、使用しなければ何も出力されません。AMSのクラスファイル `amsart.cls` などと同じ動作です。

`\maketitle` 命令より前に記述します。

`\subjclass{コードリスト}`

`\subjclass[バージョン]{コードリスト}`

AMS Mathematics Subject Classification コードをカンマ区切りで指定します。1ページ目の脚注に出力されますが、使用しなければ何も出力されません。バージョンとして1991、2000および2010が指定できます。デフォルト値は2000になっています。AMSのクラスファイル `amsart.cls` などと同じ動作です。

`\maketitle` 命令より前に記述します。

`\begin{abstract}...``\end{abstract}`

予稿の概要を書くのに使用します。 `article.cls`、 `jarticle.cls` のように `\maketitle` 命令の後ろに書くことも、 `amsart.cls` などのように `\maketitle` 命令の前に書くこともできます。

`\lecturetype{講演種別}`

最初のページの左上すみに講演種別を掲載します。

総合講演、企画特別講演の場合のみ使用し、一般講演の場合は使用しません。「講演種別」として指定する文言については開催校側から指示があります。`\maketitle` 命令より前に記述します。

2.4 機能制限

L^AT_EX2_ε 標準のクラスファイル `article.cls`、 `jarticle.cls` に含まれるいくつかの機能は使用できなくなっています。

- `\pagestyle` 命令で `empty` スタイル (デフォルト値) 以外を選択することはできません。
- ソースファイル中で余白等を変更すると正しく L^AT_EX/pL^AT_EX が動作しません。チェックの対象となっている変数は以下のとおりです。

<code>\textwidth</code>	<code>\headheight</code>	<code>\evensidemargin</code>
<code>\textheight</code>	<code>\headsep</code>	<code>\oddsidemargin</code>
<code>\topmargin</code>	<code>\footskip</code>	

実際の動作についてはアーカイブ中の `sample_ja.tex`、および `sample_en.tex` を参照してください。

3 その他

3.1 ページ数の制限

この学会予稿用クラスファイルはページ数のチェックをしないので、投稿に際しては各分科会規定のページ数を越えないよう注意してください。

3.2 既知のバグ

- abstract環境中で`\footnote`命令を使用すると、`\maketitle`を書く位置によって脚注番号のつく順序が異なることがあります。原則としてabstract環境中では`\footnote`命令を使用しないでください。

参考文献

- [1] 日本数学会. 学会予稿用クラスファイル.
(<http://mathsoc.jp/meeting/textstyle/>).
- [2] 日本数学会. 学会アブストラクトの書式. 数学通信, Vol. 8, No. 3, 2003.
(<http://mathsoc.jp/publication/tushin/0803/kaiho83-abstract.pdf>).
- [3] L. Lamport. 文書処理システム $\text{\LaTeX}2\epsilon$. ピアソンエデュケーション, 1999.
- [4] F. Mittelbach 他M. Goosens. The \LaTeX コンパニオン. アスキー出版局, 1998.
- [5] S. Rahtz 他M. Goosens. \LaTeX グラフィックスコンパニオン. アスキー出版局, 2000.
- [6] アスキーメディアワークス. アスキー日本語 \TeX (\pTeX).
(<http://ascii.asciimw.jp/pb/ptex/>).